受付番号

承認番号

動物実験計画書

年　　　月　　　日

神戸大学長　殿

動物実験責任者

所属・職名：

氏　　　名：　　　　　　　　　　　　　　　　　㊞

電　　　話：

E-mail　　：

※動物実験責任者不在時に実験計画に関して連絡を取れる動物実験実施者

氏名・電話番号：

E-mail　　：

　神戸大学動物実験実施規則第１３条の規定に基づき，下記のとおり申請します。

|  |  |
| --- | --- |
| 1.申請の種類 | [ ] 新規申請 |
| [ ] 変更申請　　　　　　　　　　　　 | 既承認番号：　　　　　　　　 　（承認日：　　　年　　　月　　　日）変更内容：※以下，変更箇所を赤字又はハイライト表示で明記すること |
| 2.研究課題名 |  |
| 3.研究概要 | ※研究目的・意義・得られる成果の重要性について，動物が受ける苦痛も考慮して記載してください |
| 4.動物実験実施者（多数の場合は別紙添付のこと） | 所属 | 職名/学年 | 氏名 | 講習会受講日 |
| *責任者* |  |  |  |
| *以下実施者* |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
| 放射性同位元素・放射線使用実験を行う場合は，当該実験に従事する者の氏名の前に\*を記載してください。 |
| 5.実験期間(最長5年まで。年度を超えて実験を行う場合は，毎年度初めに経過報告書を提出してください。) | 希望する実験期間 | 開始日／変更日 | 終了日 |
| [ ] 承認日[ ] 　　　　年　　　月　　　日 | 　 　　年　　　月　　　日 |
| 変更申請の場合，実験期間が5年を超えていないことを確認するため，本研究課題が最初に承認された実験期間の開始日を記載してください。　　　　　　　　　年　　　月　　　日 |
| 6.飼養保管施設 | 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（承認番号　　　　　　　　　　）　　　　　\*複数の場合はすべて記入 |
| 7.動物実験室 | 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（承認番号　　　　　　　　　　）　　　　　\*複数の場合はすべて記入 |
| 8.使用動物（動物種，系統毎に記載） | 動物種 | 系統 | 使用予定数 | 微生物学的品質 | 備考 |
|  |  |  | [ ] 無菌[ ] ﾉﾄﾊﾞｲｵｰﾄ[ ] SPF[ ] ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾅﾙ |  |
| 9.実験方法 | ※動物に加える処置，使用動物数と算出根拠がわかるように記入し，「14.想定される苦痛のカテゴリー」や「15.動物の苦痛軽減方法」等と整合させる |
| 10.投与する薬物等（一般的な飼料・飲料水以外に，動物に与える物質をすべて記載） | [ ] 麻酔・鎮痛薬（　　　　　　　　　　　　　　　　　） |

※以下については，該当する項目すべてにチェックを入れること

|  |  |
| --- | --- |
| 11.実験の種類 | [ ]  1.研究 　[ ] 2.教育･訓練（[ ] 学生実習）　[ ] 3.その他（　　　　　　　　　　　　　　） |
| 12.特殊実験区分 | [ ] 1.感染実験 [承認番号：　　　　　　　　　　　][ ] 2.発がん物質等危険物質使用実験 [承認番号：　　　　　　　　　　　][ ] 3.放射性同位元素・放射線使用実験[ ] 4.遺伝子組換え実験　※遺伝子組換え実験計画書（写）を添付　　区分：　[ ] P1A　 [ ] P2A　 [ ] P3A　　　→[ ] 申請中　[ ] 承認済[承認番号：　　　　　　　　，終了予定日：　　　年　　月　　日] |
| 13.動物実験を必要とする理由 | [ ] 1.培養実験，疫学・臨床研究，ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ等では，研究の目的が達成できない [ ] 2.その他 （具体的に：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ） |
| 14.想定される苦痛のカテゴリー | [ ] B 脊椎動物を用い，動物に対して殆ど，あるいは全く不快感を与えないと思われる実験[ ] C 脊椎動物を用い，動物に対して軽度のストレス又は痛み(短時間持続するもの)を伴うと思われる実験[ ] D 脊椎動物を用い，動物に対して回避できない重度のストレス又は痛み（長時間持続するもの）を伴うと思われる実験 |
| 15.動物の苦痛軽減方法 | [ ] 1.短時間の保定・拘束および注射など軽微な苦痛の範囲であり，特に処置を講ずる必要はない[ ] 2.麻酔薬・鎮痛薬等を使用する[ ] 3.その他の苦痛軽減処置を講じる （　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　 　　　）[ ] 4.科学上の目的を損なわずに苦痛軽減処置を講じることはできない（理由：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ）[ ] 5.動物が耐えがたい痛みを伴う場合，適切な時期に安楽死措置をとるなどの人道的エンドポイントを考慮する |
| 16.安楽死の方法 | [ ] 1.過麻酔　薬剤名（[ ] バルビツール酸系　[ ] ｲｿﾌﾙﾗﾝ等　[ ] その他：　　　　　　　　　　）[ ] 2.頸椎脱臼　（[ ] 麻酔下　[ ] 熟練者の指導下）[ ] 3.炭酸ガス[ ] 4.その他（方法とその理由：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 17.備考（その他必要又は参考事項など） |  |